



会長 猪股育夫
 幹事 熊谷敏明
 会報 鈴木彦太 佐々木源悦
 布施孝尚

例会場 ホテルサンシャイン佐沼 ☎22-8180 FAX22-0327
 例会日 毎週木曜日 12:30~13:30
 事務所 ホテルサンシャイン佐沼 ☎22-8180 FAX22-0327

第2492回例会 2015. 3. 19 No.36

本日の出席率

・本日の出席率 80%

会長要件 猪股育夫会長

みなさん、こんにちは。
 本日は、菅原文之職業奉仕委員長の担当で、優良企業訪問例会であります。株式会社日高見牧場佐藤寿男社長様のご好意によりまして、大変お忙しいところご無理を申し上げ今日の優良企業訪問例会をお許しいただきました。

先日、事前にお伺い致し、お話をお聞きしましたが、県内はもとより、今では全国規模での営業展開をされておられ、その製品の品質は国際的なレベルに達しております。佐藤寿男社長様ご自身も今日は北海道、明日は九州と全国を飛び回っておられます。本日は、急用で遠くに行かれたということで、専務取締役佐藤健様がお忙しい中時間を作っていただき、事業内容の説明等をしていただくことになっており、心より感謝申し上げます。

今日の株式会社日高見牧場の優良企業訪問が、佐沼ロータリークラブ会員の事業にも有意義な勉強の機会になったことと思います。

本日、お忙しい中わざわざ時間をとっていただきました株式会社日高見牧場様の今後益々のご発展と、佐藤寿男社長様はじめ皆様のご健勝を心からお祈り致します。本日は、どうかよろしくお祈り致します。

幹事報告 熊谷敏明幹事

- ・ロータリー米山記念奨学会より 普通寄付金（下期分）の納入のお願い
- ・川崎大師RCより、会報が届く

◎職場訪問（担当：菅原文之職業奉仕委員長）

のびのびになっておりました優良企業訪問を(株)日高見牧場のご承諾を得てやっと実施することが出来ました。本日は急用で佐藤寿男社長様のご不在ということでもと残念ですが、専務取締役の佐藤健様に対応して下さることになり有難いと思っております。

日高見牧場さんは東北でNo.1の会社であります。後程色々ご説明があると思います。今日のご訪問が会員皆様にとって有意義なものになりますことをお祈り致します。

・専務取締役佐藤健様のお話

皆様ご苦勞様です。本来ならば社長がご案内しなければならぬところ、急用が出来皆様をご案内出来ないということで大変申し訳ありません。皆様よろしく伝えて下さいとのことでした。

日高見牧場は、昭和62年に肉用牛の肥育関連事業を法人化いたしました。200頭から始め現在6,500頭を飼育しております。昨年の実績ですと年間の出荷頭数が2,100頭、売上で約15億円、それに関連する事業として、平成12年にグリーンプラン(株)を設立し、こちらの方に36人位従業員がおりますけれども、三重の方にも工場があり7人位おりますが、こちらと同じ位の生産能力を持っております。三重と宮城を合わせて年間19億円位を売り上げております。三重では原料を現地で調達し、主に関西のホームセンターに納入させていただいております。新規に今年からコメリさんへの納入も始まり、カキ殻石灰を生産しております。

牛の方は主に仙台に出荷しており、横浜市場、そして最近では京都にも出荷しております。交雑牛（ホルンスタインに和牛をかけたもの）これを日高見牛、黒毛和牛を日高見と言っており、年間出荷頭数は、「日高見」1,400頭、「日高見牛」2,500頭です。

これから牧場の方を見に行きますが、銀山成沢牧場で3,000頭、ここから5~6km離れた北沢500頭、そして、現在1,400頭入る牛舎を建設中です。岩手県の藤沢の方にも牛舎を建設中です。又、420頭の黒毛和牛の繁殖もしております。

以下、資料より引用
 宮城県の北東部に位置するここ登米市一帯は北上川沿いに開けた豊穡の土地。「日高見」とはこの北上川の古い呼び名であり、古来より、自然の恵み豊かな全国有数の良質米生産地です。ひとめぼれやササニシキといった、ブランド米が実りをもたらす素晴らしい環境はまた、昔から畜産が盛んな土地柄であり、県内はもとより東北においても屈指の肉用牛生産地として、その名を馳せております。

当社は、昭和62年に事業を法人化して以来、何よりも「安全・安心」をモットーに、良質な肉牛の肥育一筋に歩んでまいりました。

いま、肉牛を取り巻く市場環境は、BSEをはじめとするさまざまな問題を抱えており、決して楽観できる状況ではありません。しかし、当社では、創業当時の「美味しく、信頼のおける高品質な肉牛を生産する」という一念を強く守り続けることにより、おかげさまで地元はもとより関東、関西方面から、安定かつ高水準な引き合いを頂戴しております。

肉牛は、いずれ枝肉として市場に流通し皆さまの口に入る「食品」です。「肉牛を飼育すること」とは、すなわち「食品をつくること」にはかならず、牛舎はある意味、食品工場でもあるわけです。そう認識することにより当社では、肉牛肥育に関して、早い段階から徹底した効率化とクリーンな空間づくりを図り、先

進的で快適な飼育環境を実現させました。この好環境が牛に過度なストレスを与えず、のびのびと育つことで、常に上位等級（3等級以上）の発生率が7割以上という好結果をもたらしております。

また、園芸培養土、生産者用培養土等を生産・販売する「グリーンプラン株式会社」を平成12年に設立いたしました。自然の力を最大限に活かす、地域循環型農業を確立をいたしました。日高見牧場のモットーである「安全・安心」のもとに育てられた肉用牛の堆肥から生まれた肥料を加えることによって、「豊かな土壌を作り、おいしい作物を作る」を基本にプロの生産者の方にも喜ばれる各種資材を生産しております。これからも環境に配慮した次世代農業に貢献する農園芸資材の更なる開発を目指しております。

肉牛の肥育管理とは、そのほとんどが「餌をやる」「排泄物をとりのぞく」という、平たく言えば運送業務的な労働に、その労力の大半が費やされているのが現実です。そこで当社はいかに省力化できるかを考え、動線をシンプルにすることと、車による大量搬入・搬出が可能になるように施設を大型化しました。その結果繁雑さが軽減され、グループで約5,700頭という大規模な肥育管理を実現しております。牛舎はクリーンさを第一に、人も牛も快適であるよう徹底した環境整備を行っており、これが「安全・安心」の大きな礎になっております。

また当社では、地元生まれの、生後間もないスマール（仔牛）を導入。そこから当社独自の一環飼育を行うことにより、常にクオリティの高い肉牛を生産しています。

— 以下、紙面の都合上割愛させていただきます。



猪股育夫会長のお礼挨拶



専務取締役佐藤健様に丁寧にご説明いただきました



ロボットで製品をパレットに積むそのスピードに感動する会員



熱心に話を聞く会員



菅原文之職業奉仕委員長の挨拶